

真の急性期病院とは？

理事長 石井 暎禧

一般病院に機能分化の流れ

わが国の医療およびその中軸施設である一般病院をめぐる環境は激変の様相を呈しています。その核心は病院の平均在院日数を国際水準（1～2週間）にまで短縮しようとする国の動きであり、第4次医療法改正による一般病床削減対策とあいまって、今後、この動きはますます激しくなると予想されます。

それは、在院日数を基準とした診療報酬制度のドラスティックな再編成によって、在院期間1～2週間をメルクマールとして一般病院、一般病床内部での機能分化が始まるということです。つまり、現状では、一般病床は療養型病床との区分という点においてのみ意味がある病床概念であり、一般病床＝急性期病床と考えられていますが、今後、一般病床の中の分化が始まり、急性期概念が絞り込まれ、平均在院日数2週間以内の病院のみが《急性期病院》と見なされるようになると考えられます。

超急性期病院をめざして

このような情勢下で川崎幸病院、狭山病院が地域の急性期医療機能を十全に担って行くためには、「今年度も昨年度並みの着実な進歩」では決定的に不足です。このような動きに的確に対応し、救急医療を軸とした内部的な医療機能の向上および業務処理システムの改善を図ることは当然です。しかし、問題はそのレベルには止まりません。急性期医療機能の向上は、病院に、より高次で密度の高い地域連携を要求します。つまり、病診連携のみならず、病病連携、それも現状での「療養型病院」との連携のみではなく、1～2週間後の治療を担当する一般病院との連携を要求するのです。そのためには、一病院では治療が完結しないことを前提とする地域医療システム（「治療・療養のプロセスは疾患ごとに施設を横断する」ということを共通認識とする）を作り出すことが不可欠です。そこでは、クリティカルパスなども、一病院完結型では不十分となることが

本紙タイトル『海燕』は、M・ゴーリキーの散文詩《海燕の歌》（1901）に由来しています。その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海。戸惑い騒ぐばかりの鳴らの群を尻目に、
海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

（編集部によるダイジェスト）

十分に予想されます。いわば真の急性期病院は、地域に責任を持ち、医療・介護を包含するケアの入口を受け持つため、リーダーシップをとらねばならないという

ことです。今年度のはじまりにあたって、以上の認識を基本に据え、医療機能の進化に邁進していただきたいと思います。

石心会の平成13年度事業計画について

本部事務局長 辻田 征男

4月に入り、石心会の新事業年度が始まりました（光和会は7月1日より）。医療法人財団である石心会の寄付行為（会社の定款にあたる）には、毎年3月に理事会、評議員会において翌年度の事業計画および予算を決定しなければならないと定めてあります。この法人の機関決定に向け、各事業所において予算作成の作業が毎年行われます。

近年、国の医療政策は、加速度的に優勝劣敗の方向を明らかにしており、病院間競争は激しさを加えています。その中で、石心会が健全な経営体として生き残り、地域のニーズに見合った質の高い医療・ケアサービスを提供しつづけて行くために、今年度は極めて重要な年度となると考えられます。以下、今年度の事業計画のアウトラインを述べてみましょう。

【事業計画の方向】

平成13年度の事業計画の重点は川崎幸病院、狭山病院を本格的な地域の一番病院に押し上げるためのハード面の充実を視野に置いたことです。

狭山病院においては、昨年の地域医療計画見直し時に取得した61床増床に向けて只今外来クリニックの建設の準備を進めています。現在のスケジュールでは秋頃着工、オープン是一年後です。外来

クリニック完成後、病院の改装が始まり、完成後は実際の収容能力がおおよそ409床ぐらいとなる予定です。これを85%ぐらいの占床率で運営すると、ちょうど許可病少数の349床ぐらいとなります。現在の実際の入院患者数がおおよそ240～250ですから100人ぐらいの入院患者数が増える計算になります。かつ平均在院日数も現在の20日から14日以内に短縮するとなるとおおよそ750人/月ぐらいの新規入院患者数がいないと病棟がフルに埋まらないこととなります。狭山病院の直近6ヶ月間の新規入院患者数の平均は357人/月ですから現状の2倍強の入院患者を外来、救急車、紹介で確保するわけですから病床規模が2倍強になるのと同じであり、大事業であるとの認識が必要です。当面は、外来クリニックの運営に視線が集まると思いますが本番は増床後であることに注目してほしいと考えます。

川崎幸病院は、幸クリニック建設による増床から4年目を迎えようやく病床がフル回転の様相を呈しています。直近の平均在院日数が17日となっていますが、これを14日以内にするには病院間の連携をより強力に進める必要があります。そして、超急性期病院を体現したその向こうに新築移転の展望が見えてきます。

十分に予想されます。いわば真の急性期病院は、地域に責任を持ち、医療・介護を包含するケアの入口を受け持つため、リーダシップをとらねばならないという

石心会の平成13年度事業計画について

本部事務局長 辻田 征男

4月に入り、石心会の新事業年度が始まりました(光和会は7月1日より)。医療法人財団である石心会の寄付行為(会社の定款にあたる)には、毎年3月に理事会、評議員会において翌年度の事業計画および予算を決定しなければならないと定めてあります。この法人の機関決定に向け、各事業所において予算作成の作業が毎年行われます。

近年、国の医療政策は、加速度的に優勝劣敗の方向を明らかにしており、病院間競争は激しさを加えています。その中で、石心会が健全な経営体として生き残り、地域のニーズに見合った質の高い医療・ケアサービスを提供しつづけていくために、今年度は極めて重要な年度となると考えられます。以下、今年度の事業計画のアウトラインを述べてみましょう。

【事業計画の方向】

平成13年度の実業計画の重点は川崎幸病院、狭山病院を本格的な地域の一番病院に押し上げるためのハード面の充実を視野に置いたことです。

狭山病院においては、昨年の地域医療計画見直し時に取得した61床増床に向けて只今外来クリニックの建設の準備を進めています。現在のスケジュールでは秋頃着工、オープン是一年後です。外来

ことです。今年度のはじまりにあたって、以上の認識を基本に据え、医療機能の進化に邁進していただきたいと思います。

クリニック完成後、病院の改装が始まり、完成後は実際の収容能力がおおよそ409床ぐらいとなる予定です。これを85%ぐらいの占床率で運営すると、ちょうど許可病少数の349床ぐらいとなります。現在の実際の入院患者数がおおよそ240~250ですから100人ぐらいの入院患者数が増える計算になります。かつ平均在院日数も現在の20日から14日以内に短縮するとなるとおおよそ750人/月ぐらいの新規入院患者数がいないと病棟がフルに埋まらないこととなります。狭山病院の直近6ヶ月間の新規入院患者数の平均は357人/月ですから現状の2倍強の入院患者を外来、救急車、紹介で確保するわけですから病床規模が2倍強になるのと同じであり、大実業であるとの認識が必要です。当面は、外来クリニックの運営に視線が集まると思いますが本番は増床後であることに注目してほしいと考えます。

川崎幸病院は、幸クリニック建設による増床から4年目を迎えようやく病床がフル回転の様相を呈しています。直近の平均在院日数が17日となっていますが、これを14日以内にするには病院間の連携をより強力に進める必要があります。そして、超急性期病院を体現したその向こうに新築移転の展望が見えてきます。

【利益計画】

「医療機関の存在理由あるいは使命である高水準の医療サービスの提供を通じての社会貢献を可能ならしめるためには、優れた医療機関であると同時に経営体としてもきっちりとした社会的信用を得る必要があります。その基本的なものさしこそが利益であり、それは一方で顧客からの支持、他方で経営者および従業員の能力の高さを示します。」

(『海燕』第2号より)

日本病院会の最近の統計資料によると、わが国の黒字病院における医業収入対比の利益率(税引き前利益/医業収入)は5%となっています。しかるに当法人の各事業所の場合、人工透析クリニックを除けば、良くて3%ぐらいに止まっています。

事業に対する投資の原則は、「強い部分に投資し、さらに拡大強化すること」です。したがって、当法人の利益率がこのレベルに止まっている限りでは、どのような拡大プランを描こうとも、金融機関などに対し説得力を持たず、まさしく画餅に帰してしまいます。上述したとおり、当法人は、次の時代を見据えた医療を展開するため、ハード整備を含む、大規模な事業計画の第一歩を踏み出そうとしています。この計画を画餅に帰さないため、今期は、法人全体で5.8%の利益目標を掲げました。川崎幸病院、狭山病院については5%にやや届かない目標に止めたが、今年度中の達成が難しければ来年度にはぜひ達成して欲しいと思います。法人の中で通院透析治療を担う両人工透析クリニックについては、20%以上を目標として15%を最低目標としました。

【平成13年度の主な事業計画】

●川崎幸病院

増床後4年目を迎え、仕上げの年とする。

同時に移転新築の元年と位置づけ、準備に入る。

1. 救急医療体制の充実

- * 整形外科の常勤医を確保し、多発性外傷の救急患者を受け入れられるようにする。
- * 救急隊向けの勉強会を病院各職種が実施する。

2. 病院間の連携システムの構築

- * 重症の救急患者が集中した場合の協力体制や病院の特性に応じた患者紹介、逆紹介

3. 病診連携の強化

- * 川崎幸クリニックとの一体的運営
- * 開業医からの紹介、開業医への逆紹介の積極的推進

4. 臨床研修指定病院の指定申請

5. 看護職員の安定的確保

6. 地域への医療啓蒙活動の強化

●川崎幸クリニック

専門性と総合性を兼ね備えた、病院の外来部門としてのクリニックづくりを行う。

1. 総合外来の充実

毎日午前午後の診療体制を構築すべく医師の確保に努める。

2. 専門外来の充実

専門医と高度な医療機器、スタッフを充実させ、患者、開業医双方の期待に応えうる専門外来とする。

- * 内科医の補充と増員、皮膚科医の増員
- * 消化器科と内視鏡担当医との連携強化
- * 専門外来の新設(アレルギー外来、血液内科外来など)

- * 心臓エコー装置の購入

3. 患者満足度の向上

- * 入院適応の患者さんの処遇について川崎幸病院との連携を密接にするため、患者サービス課内にコーディネータを置く。

- * 看護部の増員によって相談業務を充実させる。
- * 患者満足度調査・対応活動を充実させる。
- * 「接遇に笑顔」を徹底する。

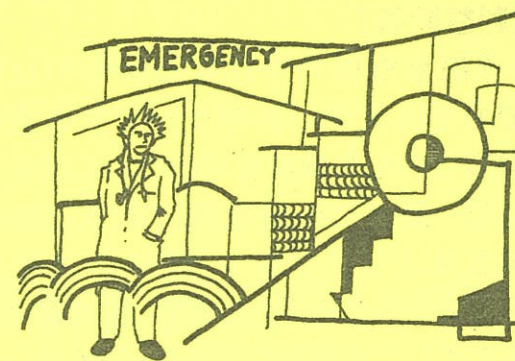
4. 地域連携

- * 開業医への患者逆紹介の積極的に推進する。
- * 患者さんから「川崎幸クリニックと川崎幸病院は一体」と評価されるよう、有機的連携を深める。

●狭山病院

平成14年度増床(一般349床、透析85床)を視野におき、診療機能の充実を図る。

1. 臨床研修指定病院の指定申請
平成14年度指定を目指す。
2. 外来電子カルテの導入
3. 救急医療の充実
特に小児救急輪番制にのった小児救急の充実
4. 人工透析医療の充実
エンドトキシンプリー透析の導入と透析ベッド増床に向け患者数を確保する。
5. 土日祝日の医療体制の充実
6. 病診・病病連携の強化



●川崎クリニック

安全快適な人工透析の実施

●鹿島田クリニック

安全快適な最先端の透析施設としての知名度を高め、早期に施設がフル回転するように患者増を図る。移転に向けて施設のコンセプトを検討する。

●在宅療養関係施設

自治体の財政悪化による補助金削減の影響で委託事業の採算性が低下しているため、訪問事業の規模拡大で収支のバランスを取りつつ看護、介護の質を向上させ、勝ち残ることの出来る施設づくりを行う。そのためにリスクマネジメントを徹底させ、かつ情報化投資を行う。

平成13年度(第29期)収支予算

(単位:千円)

事業所	収入	費用	利益
川崎幸病院	4,444,907	4,236,086	208,821
川崎幸クリニック	1,437,699	1,337,047	100,652
狭山病院	6,904,018	6,566,372	337,646
川崎クリニック	1,416,530	1,193,933	222,597
鹿島田クリニック	325,143	322,866	2,277
さいわい訪問看護ステーション	160,739	153,337	7,402
さいわいヘルパーステーション	39,843	38,713	1,131
さいわい在宅サービスステーション	5,502	6,927	▲1,425
いきいき訪問看護ステーション	58,623	57,560	1,063
新川崎在宅介護支援センター	9,200	15,524	▲6,324
新川崎居宅介護支援事業所	28,709	31,627	▲2,918
石心会在宅介護支援センター	27,977	42,874	▲14,897
石心会〈総計〉	14,858,890	14,002,865	856,025

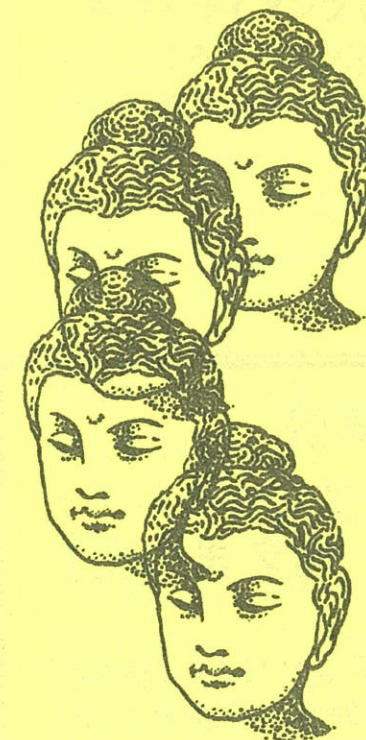
★トピックス① ～狭山病院

『第8回公開カンファレンス

(小児救急の現状と課題)を開催』

所沢、入間、狭山地区の小児救急輪番制が発足し、半年が経過しました。この間、小児科の時間外受診はウナギのぼりで、日曜日には50人以上に達することもあるほどです。

3月29日、地域一丸となって救急対応力を向上させる目的で第8回公開カンファレンスを開催しました。演者を東京慈恵会医大講師(当院非常勤医)井田弘幸先生にお願いし、狭山保健所の長屋所長よりご挨拶をいただきました。救急隊員70名をはじめ、登録開業医、当院職員など120名もの人が集まり、小児救急に対する関心の高さがうかがわれました。



★トピックス②

～川崎幸病院

『臨床研修指定病院の取得に向け講演会の開催』

さる3月12日、川崎幸病院では、狭山病院に続き『臨床研修指定病院の取得を目指して』と題し、石心会顧問の一力行雄氏による講演会が開催されました。

医師および看護部、事務部の管理職が参加し、いくつかの越えねばならないハードルがあることを実感するとともに、来年5月の申請を目指して、岩井副院長をリーダーに早速取得に向けた検討に入りました。



★トピックス③

～アルファメディッククリニック

『政府管掌健康保険の指定施設に』

アルファメディックが政府管掌健康保険の「生活習慣病予防健診」の指定施設に内定しました(正式契約は8月)。現在、政府管掌の指定施設は県内に31カ所、これまでにアルファメディックが獲得した指定タイトルは以下の三つです。

社団法人日本病院会指定

健康保険組合連合会指定

日本病院会指定自動化健診優良施設

★トピックス④

～鹿島田クリニック

『患者数が当初目標を突破』

鹿島田クリニックが開設されて丸1年が経過しましたが、この間、患者数は順調に伸び続け、当初目標の47人を10人上回る57人(平成13年4月現在)に達しました。

★トピックス⑤ ～狭山病院

『開放型病院・登録医の先生方が
増えました』

狭山病院の開放型病院登録医は昨年4月より19人(17診療所)増加し、120人の大台に達しました。地域的には所沢市が22人から33人に大きく増加しており、この間、所沢市からの紹介件数が大きく伸びていることと比例しています。

《趣味探訪》

寄稿 僕は単純、単独、単車が好き (その1)

川崎幸病院 総務課 織茂 和洋

〔前 説〕

内藤陳ではありませんが、これは絶対オススメです。・・・そう、石心会にもいたんです。茫洋とした風貌の裏に熱くアナーキーな魂を隠した男が。

この文章、テーマがテーマだけに、一寸見には、片岡義男風の軟弱なトリビアリズムの産物かと思ったのですが、さにあらず、颯爽と吹き抜ける一陣の風にも似たリリズムと含羞、更に目を凝らせば船戸与一やアラン・シリトーが描く底知れぬニヒリズムも感じられます。・・・ということで、かなり長い文章ですが、副編集長の独断・偏見に基づく権限(そんなものあるんかいナ)で、全文連載する(さすがに一挙掲載するだけの度胸はありません)こととしました。

なお、題名、小見出しは編集部で勝手に付けさせて貰いました。

白木

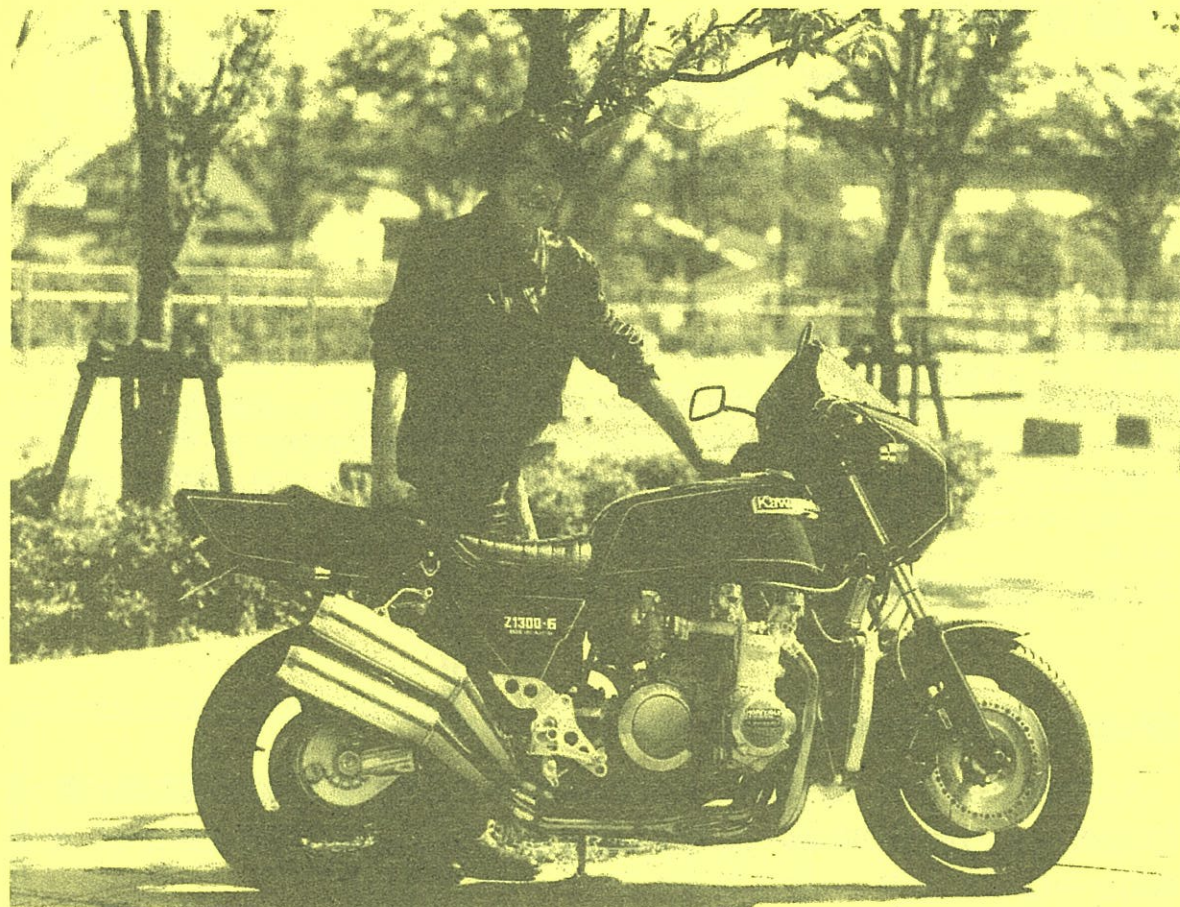
ダイブそして有刺鉄線

人には誰でも、理想のヒーロー、ヒロイン像がある。僕の場合、幼稚園の頃出会った『大脱走』という映画の中にいて、今でも観る度にあの時と同じ興奮を感じる。そう、僕のヒーローは、スティーブ・マックィーン=ヒルツ大尉だ。

彼はトライアンフ(オートバイ：設定はBMW)を駆り、スイス国境まで逃げてきたところでドイツ軍に追いつめられ、有刺鉄線で遮られた境界線は絶望的に高く長い。彼は迷うことなくオートバイで国境越えの高跳び(これが本当の)を選び、そして跳んだ。1つ目は成功、2つ目はドイツ軍の機関銃弾に邪魔され失敗、捕虜となった。とにかくそのジャンプにシビレた。彼は速く、高く跳び、まるで単車と人が同化して同じ意志と行動をとっている様だった。(後でこのカットはマックィーンの代わりに彼の友人のバド・イーキンスというプロレーサーがやったことを知ったが、そんなことはどうでもいい)とにかく、これを観た瞬間に僕の一生の趣味選択がなされたことは本当だ。以来、彼は僕のヒーロー、単車は僕の身体の部品として存在している。

次に単車に出会うのはかなり後のこと、僕が中学生の頃だ。ある日授業も終わり、自宅の前まで来ると、一台の単車がエンジン駆けっぱなしのまま置いてあった。不思議に思い、辺りを探すと自分の家の玄関に大きい男が立っていて、奇妙なことに半分閉まったドアに首だけを突っ込んでいる。男は新聞か何かの勧誘らしく、我が家族が不利な立場に立たされているらしい。会話はこうだ。「この前1ヶ月なら入れると約束したじゃないか、約束は約束だぞ奥さん」、とまあこんな感じ。男は大柄で僕よりはかなり年上、とにかくこいつを家から引きずり出し、遠ざけることが必要だ。つまみ上げるにはでかすぎるし、さてどうしたものか。

だが、僕の前にはエンジンの始動した『こいつ』の単車がある、あの『大脱走』の



テーマが心の中で響いた。学ランの前ボタンを外し、単車に跨った。操縦方法は知らないが、何となく雰囲気でペダル様の物体を踏んでみる。小さい振動があり車体が前に出た。「コレだ!」と思い、右手のグリップを少しあけてみる。エンジンの力強い鼓動が直接身体に伝わってきた。僕は叫んだ。「頂きだぜ、オッサン=」「ヒャ・ウィ・ゴー!」

グリップをグッと回すと単車は僕の想像より遙かに力強く前へ進んだ。後ろを振り返る余裕は全然なかったが、何か後ろの方で怒鳴る男の声と母親の金切り声が聞こえたような気がした。20分くらいは夢の様な時間だった。スイスの国境をトライアンフで跳ばすマックイーンと田んぼの畦道をカブで跳ばす僕。カッコ良さは、少なくとも僕の頭の中では同じだった。しかし陶酔の時は短く、現実が苦い。ちょうど通りかかった大瀬交番の巡査に発見され、同じカブ(といってもオマワリカブは+40cc排気量がでかい)に追跡され、技術も相手の方が数段上手だったせいか、あっけなく御用。こうしてマックイーンはドイツ軍に捕まり捕虜収容所に、僕は警官にパクラれ交番に、と、収まる所にめでたく収まってしまった。これからが大変で、結果としてわが家は読売新聞の半年間購読を約束させられてしまったのだが、僕はあくまでマックイーンを気に入り、ニコニコ顔でA-2フライトジャケットならぬ学ランを小脇に抱え自宅に戻った。

オリモカズヒロの単車修業時代

数年が過ぎ、16歳になるとすぐに『二輪免許(中型)』を取得するために教習所通いを開始した。とにかく、自分の単車が欲しかった。学校では禁止されていたが、そんなことは当然眼中になく、僕には単車の購入資金の方がよっぽど重大問題であった。朝の製紙工場、夜のうどん屋のバイトを見つけ、購入のメドを立てる予定だったが、免許が取れたとなるともう我慢できない。『日本信販』と3年間の友好関係を結び(それ以来今日もその関係は続いている)、とうとう新車を購入してしまった。車種はもう決まっていた川崎重工製のZ400FXという空冷4気筒400cc、当時としてはハイメカニズムで重い単車であった。暴走族の全盛期でもあり、この単車も人気はあった(と言うより暴走族はFXが普通だった)。

しかし、僕は集団暴走行為は好きではなかった。何故かと聞かれると答えに詰まるが、とにかく集団で蛇行しながらのんびりと同じ所を行ったり来たりする面白さが理解できなかった。それに、族長だの特攻隊だのとやたら階級や力関係があり、面倒だ。他のチームと出くわすとブン殴り合いの喧嘩をしなければならないし、警察にも追っかけ回される。一晩中こんなことの繰り返しで単車を楽しむ暇もない。クラスでもよく土曜の集会へ誘われたが、義理で顔だけ出し、すぐにわざとはぐれて1人で走っていた。とにかく走るのが楽しかった、遠くへ、そしてそこからまた遠くへ、疲れればそこら辺で野宿し、また走る。ガソリンも金も尽きるとそこいらのスクーターからカンパを募った(全部は抜かなかったので勘弁して下さい)。目的は『ただ走る』ことで十分だった。僕は結局『単』が好きなのだろう。『単車』、『単独』、『単純』と。

そんなある日、僕は一台の強烈な単車に出会った。それは同じ川崎重工製でマフラーが6本。つまり、並列6気筒で巨大な燃料タンクを背中乗せ、エンジンもまた巨大で横に大きくはみ出していた。まるで軍馬の様相で周囲の単車がラバカポニーにしか見えなかった。

「デカイな、こりゃ『単車』じゃなく『戦車』だ」

「Z1300って1300ccってことか、スッゲーな、俺も大型免許欲しいな」

「ああ、これなら 遠くまで行けそうだ」

友人としばしこの『単車』に見入っていた。

「それじゃまた走ろうぜ」「オオよ」……奴とはそれっきりとなった。卒業式の日、あいつは『高校』と『人間』を卒業した。単車で死んだ友人はこれが最初でも最後でもなかったのだが……。

(つづく)